



Keeping Children Safe

校長 佐藤 雅彦

ロンドン日本人学校は文部科学省認定による在外教育施設であり、学習指導要領に則った教育活動を展開しています。同時に、英国教育省より認定を受けた私立学校として、私立学校基準“Independent School Standard”また、セーフゲーディング等の法定ガイダンスに則り、英国教育水準局 Ofsted の監査を受け、その指摘に基づき実施する必要があります。

英国教育省からの法定ガイダンス

KCSIE=(Keeping Children Safe in Education)

「教育現場における子供の安全の確保」2023年度版は、9月1日に発効した法定ガイダンスです。学校の全てのスタッフは、懸念事項を早期に発見し、子供たちが安全に学べる環境を提供する責任があります。

セーフゲーディングとは、子供にいかなる危害も及ぼさないよう、つまり虐待・搾取や危険のリスクにさらさぬよう努めることであり、万一、活動を通じて子どもの安全にかかわる懸念が生じたときにはしるべき責任機関に報告を行い、その指導に基づき組織の責任として取り組むことが必須となっています。

学校内での事案はもちろんですが、子供の様子や相談から、教職員が家庭内での懸念事項を把握した場合、学校のセーフゲーディング責任者である岡本 DSL、(関根 副・DDSL、房田 副・DDSL)へ速やかに連絡し、その事項により、カウンセルの地方自治体指定職員 Local Authority Designated Officer LADOに報告することが定められています。

【報告が義務付けられている4つの虐待】

(1) 身体的虐待

殴る、揺さぶる、噛む、投げる、髪を引っ張る、つねる、やけどを負わせる等、傷の軽重に依らず子供に身体的危害を与えること。

(2) 精神的虐待

子供の情緒的な発達に深刻な悪影響を及ぼすような、子供への持続的な精神的虐待。

- ・子供に意見を表明する機会を与えない
- ・発言を馬鹿にしたり、意図的に黙らせたりする
- ・発達段階を越えたやり取りや過保護、探索や学習の制限、社会的交流への参加を妨げる
- ・高圧的な態度（言動）で接する
- ・頻繁に恐怖や危険を感じさせる 等

(3) 性的虐待

性的な行為を強要したり、そそのかしたりすること。性的な画像を見せたり、性的な行動をとるよう子供に促したりすること。ネットや SNS を利用した性的情報の押し付けや拡散、脅迫、誘惑による性的虐待の助長も含まれる。

(4) ネグレクト

子供の身体的及び心理的ニーズを満たすことが持続的に行われず、健康や発達に深刻な障がいをもたらす可能性が高い状況にあること。保護者が適切な衣食住を提供することを放棄したり家庭からの排除または育児放棄をしたりして、子供が身体的・精神的に追いつめられる状況にあること。

【カウンセルへの報告について】

上記、大人からの虐待（家庭内を含む）のみならず、子供同士の虐待の危険性があると思われる場合においても、本校セーフゲーディング責任者である岡本 DSL、(関根 副・DDSL、房田 副・DDSL)からカウンセルの地方自治体指定職員 LADO へ報告することが義務付けられています。

虐待やハラスメントはその軽重に依らず、「成長の一過程」などとして軽んじることは容認できないと法定ガイダンスには記されており、それが守られなければ、子供にとって安全ではない環境へとつながり、最悪の場合、虐待を常態化させる文化が広がってしまいます。いじめ事案を含め、子供たちがそのことを普通のこととして受け入れてしまい、相談したり、名乗り出たりしなくなってしまうことは絶対に避けなければならないのです。

子供の安全確保に関して先駆的に取り組まれている英国では、虐待等の事案は日本にも増して厳格に行政執行がなされます。虐待かどうかを判断するのは学校ではなく通告を受けたカウンセル（評議会）です。その判断によっては、警察等が介入する場合があります。

【長期欠席に係るカウンセルへの報告について】

英国の学校では、「親は子供に適切な教育を受けさせる義務がある」の法律に基づき、地方教育当局であるカウンセルの学校サービス（子供の出席項目）に、長期欠席者とその状況の報告をすることが義務付けられています。

長期欠席の状況にある児童生徒については報告を行う必要があり、それに基づいてカウンセルのESW（教育ソーシャルワーカー）が学校や家庭を定期的に訪問し、指導支援に当たります。

【オンライン セーフティーについて】

違法、不適切、有害な情報にさらされる危険性から子供たちを守るために法律が強化され、オンライン使用時のフィルタリングとモニタリングを徹底することが求められています。ご家庭も安全責任の義務を負っており、子供たちがスマートフォンやPCなどを家庭で使用する際には閲覧制限（フィルタリング）を行ったり、ネットやSNSの利用状況の確認（モニタリング）を行ったりすることが必要です。なお、小学部4年生以上の児童生徒に学校から貸与しているiPadは、ご家庭でのフィルタリング、モニタリングに協力いただけない場合、機器の貸出を中止させていただきます。10月29日、日曜参観時のオンライン講座も参考にしてください。

上記のことは、「日本人学校だから」ではなく、全ての学校において同じ取り扱いで実施されています。以上、ご理解ご確認いただきたいと思います。

『ありがとう』の聲が飛び交った文化祭

文化祭パンフレットに記された実行委員長（中学部3年生徒）の言葉を改めて記してみます。

今年の文化祭のスローガンは「輝色満面～『ありがとう』が飛び交う舞台へ～」です。「喜色満面」とは喜びの表情が顔中に満ち溢れている様子という意味ですが、一人一人が色（個性）を出しながら、輝かしい笑顔で頑張ろうという思いを込めて、『喜び』を『輝』に置き換えました。このスローガンの下、意見を交わし合いながらも助け合い、「ありがとう」の気持ちを忘れずに団結してきました。短い期間の練習でしたが、演劇や合唱、部活動の発表、そして展示物の作成等、一生懸命取り組んできました。ロンドン日本人学校の児童生徒全員が輝かしい笑顔で楽しく過ごせるように、この文化祭を創り上げていきましょう。

<保護者の皆様、ご来賓の方々の感想等>

○演劇のセリフの中にも、「ありがとう」の言葉がたくさん盛り込まれていました。子供たちが文化祭の取組を通して、大きく成長したことを感じます。

○それぞれの役割をしっかりと果たすことによって、こんなに素晴らしい発表ができることをきっと学んだのだと思います。一生の宝物になるはずですよ。

○どの学年の劇にも合唱にも感動しました。それは一人一人の真剣さ、各々の輝きが見えたからだだと思います。指導の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

○司会を日本語と英語でしていた児童生徒さんの声や様子が素晴らしくて、気品ある質の高い文化を感じました。背景画や大道具、小道具、これもまたよく出来ていて、その入れ替えや暗転などもバッチリでした。

<輝く子供たちの姿に沢山の称賛の声をいただきました>

小学部1年 おおきなかぶ



小学部2年 スイミー



小学部3年

世界たからものコンクール



小学部4年

勇気短編集～3つの勇気のカ～



小学部5年 COSMOS の箱～未来への希望



小学部6年 世界がめざす未来へ





中学部

暮国のモリアートイ



軽音楽部



ダンス部